

高知おとよ製材工場見学



研修生は、工場の規模の大きさに驚くとともに、より効率性を求めたシステムと需要に応じた安定した製品づくりに感銘を受けた様子でした。

最後の研修のコマは、大豊町役場の会議室を研修会場として、各班毎に「今後、フォレストラーとしてやってみたいこと」をテーマとし

た発表を行い、講師等からは発表内容に対する助言と激励のコメントが行われました。

閉講式では、鶴園森林整備部長から、将来のフォレストラーへエールを込めた閉講の挨拶があり、続いて集合写真を撮影して二日間の



「フォレストラーとしてやってみたいこと」発表

研修を無事に終了しました。

二日間の研修カリキュラムとしては、盛りだくさんな内容となり、検討時間の短さを指摘されたものの、実際に現場を目の当たりに



実践研修の研修生及び講師の皆様
(前列左から三人目鶴園森林整備部長)

することで、研修に格段の説得力が加わり、研修生からはとても充実した研修であったとの好評を得ることができました。

今後においても、地域に貢献できる人材の育成を図るため、更なる研修の充実を図り、将来に繋げて行くこととします。

「森林のおくりもの」で間伐疑似体験

〈技術普及課、森林技術・支援センター〉



一〇月七日、高知県森林研修センター情報交流館において、南国市立長岡小学校の五年生一五名を対象とした森林教室を行いました。

伐体験を森林管理局で指導していただきたいとの要請を受け、実施したものです。

森林教室の実施に当たっては、まず、間伐が重要な

仕事だと言うことを説明した後、間伐の方法について、

疑似体験)は、情報交流館から長岡小学校の森林学習を行うにあたり、間

森林技術・支援センターより実演とともに、安全指導

間伐の実演中



等をしてもらい、一連の流れを理解した上で、五班に分かれて子ども達が実際に間伐を体験しました。

間伐体験といっても、山の中で実際の木を伐るのでなく、丸太を立木に見たてた情報交流館お手製の間伐木を敷地内に設置し、伐

倒方向の目標として風船を置き、割れば成功。という少しゲーム感覚を取り入れた方法で行いました。

ほとんどの児童が、ノコギリを使用したことがなく、最初は力任せに曳いたり、先だけで曳いたりして、すぐに疲れて別の子に交代するなど、時間がかかっていましたが、コツをつかんだ児童が奮闘してくれて、見事にどの班も目標の風船に当てることが出来ました。(残念ながら、音をたてて割れたのは一班だけでした。)どの班も、「もう少し!がんばれ!」「誰が倒す?」と励まし、協力し合いつながりながら、頑張っていました。

まずは、木を倒す方向の受け口を伐る



間伐体験後は、汗が光る笑顔で「疲れたけど、楽しかった。」「もっとやりたかった。」といった声が聞かれました。

「間伐は大変疲れる仕事ですが、このようにして山の手入れをしている人がいます。また、興味があれば、実際に山での間伐体験をし

てみて欲しい。」という旨の話をして間伐体験を終りました。

これからも、情報交流館等とさまざまな連携を図り、お互いによりよい森林環境教育が行えるように協力関係を築いていきたいと考えています。

鳶ヶ池中学校で森林教室

〈技術普及課〉

一〇月三十一日、高知県南国市立鳶ヶ池中学校の一年生五八名を対象に森林教室を行いました。

今回の森林教室は、「水を通して森林と私たちのつながりを考える」をテーマにして実施しました。

同校では、毎年この時期に一年生が学校林活動を通じて、「学校林の歴史」「森林の働きや役割」「森で遊ぶ」を体験していますが、今回はあいにくの空模様のため、体育館で川に関するクイズを行い、「ふるさと」は森林であり、森林の土は、雨水を地中に

蓄えておく「緑のダム」で
あることなど、森林の働き
について学習しました。
て良くわかる実験でした。」
との感想をいただきました。

次に校庭に出て、パネル
を使って、森林のある山と
森林のない山との雨のゆく
えの違いを説明しました。
その後、水の浸透実験装置
を使って、森林の保水能力
と水の浄化作用等につい
て学びました。

装置にセットし
た校庭の土と森
林の土それぞれ
に生徒が水を注
ぎ、そこから出
てくる水の流れ
方や濁り方の違
いに、生徒や先
生から「目で見
て実際に体験し



水の浸透実験装置を使つての実験

各地のたより



一〇月一〇日、徳島市上

八万小学校において一年
生、四一七名を対象とした
森林教室及び動物等のマス
コット製作を行いました。

上八万小学校では毎年、
近隣の保育所園児にプレゼ
ントを贈る等のイベントを
行つていて、今年は木工マ
スコットを贈りたいと依頼
されたことから、当教室を
実施することとなりました。
まず身近な自然の話で

は、ニホンジカが増え過ぎ
ていて食べ物がなくなり、
山の木の皮がたくさん剥が
され食べられていること
について、実際に山から採っ
てきた丸太の樹皮を見せク
イズに答えてもらいまし

た。子ども達はとても驚い
た様子でした。また近年、
集中豪雨や気象災害が多発
していることについて聞い
てみたところ、ほとんどの
子ども達がニュース等で

知つていて、関心の高いこ
とがわかりました。地球が
暖かくなつていことが原
因の一つと言われているこ
とを説明し、木を使うこと

森林教室の様子



は地球を助ける一つの方法
であることを話しました。

その後、徳島県で採れた
カシやサクラ材、ドングリ
を使用したクマやカブトム
シなどの動物マスコットを
製作しました。子ども達は
プレゼント用のマスコット

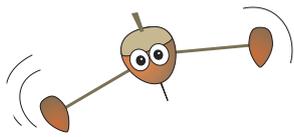
を丁寧に作り上げ、その後自分用にも作っていました。作りあげた作品には皆とても満足している様子でした。最後には全員が、「製作したマスコットを大切に飾ります」と言ってくれました。

近頃は自然や木材に触れる機会はとてまもなくありませんでしたが、実際に体験してみると、子ども達も木の暖かさや自然の大切さを感じてくれることに、改めて気づかされました。森林教室や木工クラブ等を通じて、より多くの子ども達に楽しく学習してもらえよう、私達も勉強していきたいと感じました。地域や学校等の要望に応えつつ、

今後とも森林環境教育を実施していきたいと考えています。



贈り物のマスコット作りに、皆、夢中で作製中



一〇月一八日・一九日に

徳島市藍場町の藍場浜公園において、「山と木と緑のフェア二〇一四」が開催されました。当フェアでは徳島県内の各林業関係団体をはじめ、三好高校や徳島科学技術高校による出展もあり毎年多数のお客さんで賑わいます。

当署も毎年出展しており、今年は、事業概要や風景写真等をまとめたパネル展示やマイ箸



丸太切りテープカット (右から3人目、原徳島森林管理署長)

づくり、丸太切りコースター&キーホルダーづくり、コマづくりを行いました。

始めに、実行委員長からの挨拶、続いて、徳島県副知事、徳島森林管理署長等来賓による恒例の丸太切りテープカットでイベントの開始です。

当署のブースにはたくさん親子連れが集まり、楽

しそうに作品を作っていました。子ども達にはコマづくりが一番人気で、準備していた材料が一日でなくなってしまうほど大盛況でした。

またマイ箸づくりは大人に人気があり、紙やすりできれいに箸を磨き上げた後、クルミの油を丁寧に塗り仕上げ完成させていました。丸太切りに挑戦してくれる子ども達もいて、悪戦苦闘しながら切り終えた後には充実した笑顔を見せていました。それぞれの作品を作り上げた参加者は皆満足した様子でブースを後にしていました。

当イベントは、木に触れてもらう機会づくりだけに

コマ作り、沢山の人で賑わいました。(コマうまく回るかな?)



とどまらず、徳島森林管理署の取組を知ってもらったり、また幼稚園等の先生から森林環境教育の依頼を受けたりするなど、情報発信、交流の場を広げることもつながっています。今後もこの様な機会を継続して行う必要があると感じました。



一〇月二四日、奈半利町立奈半利小学校六年生二〇名、保護者一五名、教員二名を対象に野根山街道散策を実施しました。

この行事は、「自然に親しむ体験」と「地域の歴史学習」を目的に、三〇年以上前から実施されています。野根山街道は、高知県奈半利町から東洋町を尾根伝いに結



「着いたー！」(宿屋杉の前で)

ぶ山道で、一、二二一年の承久の乱にて流刑となった土御門上皇が通られ、また藩政時代には参勤交代の通路、幕末には中岡慎太郎などの志士脱藩の道になるなど多くの歴史を刻んで来た古道です。今回は台風一一号の影響で、林道が通行できなく

なったため、米ヶ岡から宿屋杉の往復約一三kmのコースとなりました。まず出発式で当署職員の紹介と、歩行時や森の中の注意事項などを説明した後、二班に分かれて宿屋杉をめざし散策を開始しました。当日は雲ひとつない澄んだ秋空の登山日和で、みんな元気よく出発しました。須川林道から塚ノ塔までの約一時間半は、急な登りが続く歩道で「疲れた。休憩はまだなの。」など弱音を吐きながらも元気に歩いて行きました。途中、鳥の鳴き声が聞こえた場所で、バードコールを鳴らすと鳥が姿を見せた

り、動物が汚れを落とすために泥を浴びる沼田場ではニホンジカやイノシシの足跡を見つけ、動物を身近に感じられたのではないかと思います。街道散策では、史跡の名前の由来や妖怪伝説、代表的な樹木の特徴を聞きながら、自分達の住む地域のことを学習してもらいました。下山後、感想を聞いたところ「今年は登りが多く、とてもしんどかった」との声も聞かれましたが、一人のリタイヤを出す事も無く無事に終了する事ができました。野根山街道散策を通じて、子ども達は普段触れる

事のない樹木や野鳥を観察
することで、より身近に自
然を感じられたようでした。
当署としても未来ある
子ども達に森林づくりや自
然環境の大切さ、国有林が
行っている取組み等の理解
が深まるよう、今後もこの
野根山街道散策を続けてい
きたいと考えています。



これ何かな？ (散策)



一〇月二六日、高知県馬
路村魚梁瀬で毎年開催され
ている魚梁瀬地区村民運動
会に安芸森林管理署チーム
として、署職員、魚梁瀬合
同森林事務所職員及びその
家族が参加しました。運動
会は魚梁瀬地区のイベント
であり、晴天のもと、安芸
署チーム以外にも馬路村農
協チーム、丸山地区・魚梁
瀬小中学校チーム、全日本
選抜チームが参加しました。
午前中の競技では、どこ
に跳ねるか分からないラグ
ビーボールを地面にバウン

ドさせ、背中のカゴに入れ
る「実りの秋」など、大変
難しい競技にどのチームも
苦戦しながら、互角の戦い
になりました。昼休みには、
各チーム独自の応援合戦で
盛り上がり、安芸署チーム
も即興で踊りを披露して会
場を沸かせるなど。パフォー
マンスに皆の笑い声が魚梁
瀬の山々に木霊していまし
た。午後からは、丸太を伐つ
てリレーする「ザ・山師」
という私たちにとって有利
な競技で、ベテラン職員の
腕の見せ所となりました。
終盤には、他のチームも
実力を発揮し、徐々に点
差が開きはじめました。最
終種目のベストメンバーに
よるリレーでは、スタート

楽しい、玉入れ



時点の四位から皆
が全力をぶつけ二
位まで追い上げま
したが及ばず、有
終の美を飾ること
はできませんでし
た。総合成績では
三位という結果で
したが全チーム怪
我もなく、魚梁瀬
地区の方々と交流
を深めることが出
来ました。

丸太切り
(これだけは、負けられません)

